

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600100		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム めくもりの家 藤橋		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町西横山橋場南436-2		
自己評価作成日	令和6年9月20日	評価結果市町村受理日	令和7年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2192600100-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は山々に囲まれ、側には揖斐川が流れる自然豊かな場所にあり、窓からは四季折々の景色が楽しめます。利用者様お一人お一人の個性を大切に、穏やかで笑顔ある生活が送れるように職員も笑顔で接し、支援することを心がけています。利用者様の健康管理は主治医と24時間体制で連携しており、より良い介護を目指して職員研修にも力を入れて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は4カ所でグループホームを運営している。定期的に代表と管理者が意見交換を行い、職員研修も合同で実施しながら質の高い介護を目指している。自然豊かな環境にあり、利用者は、庭でレクリエーションを行ったり、ウッドデッキで外気浴、お茶、食事を楽しんでいる。また、近隣の高齢者が気軽に来訪し、利用者と共にお茶を飲みながら穏やかに過ごすこともあり、地域密着型サービスの基本の姿である。月1回事業所内で「めくもり売店」を開き、利用者が好きな物を選び自分で支払う買い物イベントも好評である。職員の資格取得を奨励し介護力を高めながら、より良い利用者支援に繋げている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念について話し合う機会を設け、掲示したり名札に付けて常に意識している。理念をもとに支援ができるように管理者は言葉にして伝え、職員と一緒に実践している。	職員の目につきやすい場所に、5項目の理念を掲げている。名札の裏にも記載し、職員は日々理念を認識し支援に取り組んでいる。代表を交えて地域密着の意義を踏まえながら、全職員で理念を再確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	山間部にある当ホームは、散歩や近所へ外出すると地域の方から声をかけていただけ、挨拶を交わすことが日常にある。地域の行事の案内を頂き、できる限り参加をして交流している。	コロナ禍で自粛していた地域の行事が徐々に開催されている。参加案内も届き、地域との交流機会も増えている。散歩時に挨拶を交わしたり、近隣から野菜や果物の差し入れもある。地域の高齢者と利用者が、事業所の庭でお茶を飲みながら、会話を楽しむこともある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には行政の方、区長、民生員等に参加していただき活動状況やヒヤリハット等を報告したり相談したりと、積極的に意見交換ができています。頂いた意見を活かしてサービス向上につなげている。	隔月に開催する運営推進会議は、各関係者が参加して、事業所の取り組み内容や今後の予定などを報告し、意見や要望を聞いている。高齢化が進む地域でもあり、今後は、事業所の見学や地域での啓発イベント等を進める方向である。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の職員連絡会のメンバーに入り会議や研修に参加して意見交換を行っている。また、近隣の振興事務所とは気軽に話ができる関係を築いており、相談や報告等を伝え連携を図れるように努めている。	町のグループホーム連絡会議に参加し、他の事業所と意見交換を行いながら、利用者サービスにつなげている。振興事務所とも連携を深め、地域福祉の向上について話し合いながら、協力関係の継続に努めている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を開催したり、職員研修を通して身体拘束をしないケアを徹底している。また言葉による拘束についても勉強している。皆で困難事例を相談し合うことで、身体拘束のないケアができています。	身体拘束ゼロの支援を実践し、現在、拘束が必要な利用者は無い。身体拘束適正化委員会も定期的に開催し、職員全体で拘束の弊害についての理解を深めている。施錠についても、利用者の気持ちに寄り添い、施錠はしないケアで取り組んでいる	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ストレスを溜めないよう管理者は常に職員の精神面に気を付けて、悩み等を気軽に話し合える雰囲気作りに努めている。また、委員会を開催したり、職員研修にて事例検討を行い、意見交換を大切にしている。	虐待防止委員会を定期に開催している。利用者個々の身体に異状がないか、注意を払いながら虐待防止につなげている。代表・管理者は、日々職員とコミュニケーションを図り、ストレスを溜めないよう配慮しながら、健全な勤務体制作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修で日常生活自立支援事業や成年後見制度を学んでいる。また、ご家族から相談されることもあり活用できるように支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は対面にて行い、説明に十分な時間を使い、理解を得ている。また、改定時も文章を作成して分かりやすいように説明している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望書や面会時にご家族からの意見や思いを伺い、職員間で共有して実現に向けて話し合い実行している。利用者様からは日常生活の中で希望や意向を知る機会が多く、ケアに反映させている。	面会時に、ケアプランに基づく本人の生活状態など伝えている。毎月送付する「くらしのお便り」には往診日・食事摂取状況・家族への連絡事項等、詳細に記載し、利用者の暮らしが分る写真も添えている。家族の意見をいつでも受け止め、運営に活かしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に管理者会議を開催して、職員からの意見や提案を聞いている。介護に対しての意見や環境整備の意見等気軽に話し合える機会を作っている。	定期的に代表が職員とコミュニケーションを図り、現場の声に耳を傾けながら、運営に活かしている。職員もまた、「利用者の笑顔を引き出すのは、自分の役割りである」と、自分のケアに責任を持っている。管理者と職員の信頼関係が、より良い支援に繋がっている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は職員の生活環境に配慮して勤務時間等を考慮している。また、個々の能力を活かした仕事内容を工夫したり努力や実績を考慮するなどして働きやすい職場環境作りに努めている。	就業環境の整備と共に、家庭と仕事の両立ができるよう、職員個々のワーク・ライフ・バランスに配慮しながら、シフトを組んでいる。職員間で互いにフォローし合っており、勤続年数も長く、経験豊かな職員が多い。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て研修会を開催している。日勤、夜勤者ともに学び、職員全員の質の向上を目指している。日々の介護の中で、先輩職員が丁寧に教えていくことを大切にしている。	年間研修計画があり、勤務時間内に学習の機会を得ることができる。OJTで職員の質の底上げを図り、職員のモチベーションを高めながら、事業所全体で育てている。代表と管理者は、意欲ある全ての職員対象に資格取得を推奨し、支援金体制も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員が外部の研修や勉強会等に積極的に参加し、同業者の方と意見交換、交流する機会を設け、ケアの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を通して信頼関係を築き、できることは自立して行っている。行事や巡る季節を共に過ごす中、一緒に笑い合う関係性を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や生活歴等を通してご本人の意向を把握している。ご本人と意思相手ができない場合は、普段の生活から考察したり、ご家族等に話を聴き意向の把握に努めている。	職員は、入居前の利用者の生活歴を把握しており、入居後は、ゆとりを持って利用者寄り添い、自分の言葉で話せるよう環境を整えている。会話が困難な場合は、何気ない仕草や表情、新たな気づきを職員間で共有し、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアの中で利用者様に対する変化や気づきを職員間で話し合い、改善に努めている。医師の指示をケアプランに反映させ、ご家族には説明、意向を伺い作成している。	家族の訪問時には、送付している通信の内容を伝えながら、ケア計画の取り組み状況を説明している。計画作成会議は、家族が参加出来る日に開催し、担当職員や医師の意見を聞きながら、現状に即した介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録簿にケアプランを記載し、モニタリングを行いながら実践、結果、気づき、改善ができるよう記録している。それをケアプランに反映して見直しに活かしている。	利用者の状態は、介護記録や日報に記載し全職員が情報を共有している。個別ケア時に変化が見られた際には、個別記録に記入し、口頭での伝達も徹底している。日々の記録からモニタリングを行い、プランの見直しや改善につなげている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様個々のニーズが異なるため、その都度話し合いニーズに合うサービス提供に努めている。例えば買い物支援や接骨院によるリハビリ体操など柔軟な支援を行っている。	利用者の状態に応じて、週1回接骨院の専門職によるリハビリ体操等の支援を導入している。家族の都合で利用者が必要とする買い物に行けない時の買い物同行支援や、月1回「ぬくもり売店」を開催し、利用者が自分で選び購入できる楽しい時間も設けている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら生活している。近隣の道の駅やお寺、診療所等を利用して地域と共に生活している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医は自由に選択できることを説明している。協力医の往診は月2回であるが、緊急時には臨時往診していただける。ご家族が往診に立ち合ったり医師から直接説明を受ける事で安心を得ている。	月2回、協力医の往診がある。職員として配置している看護師が協力医と連携し利用者の健康管理を行っている。緊急時は臨時往診もあり、24時間の医療連携体制ができています。協力医以外の受診は家族同行を基本としている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	バイタルリンクにて利用者様の情報を共有している。入院時には介護サマリーを渡して情報提供し、質問相談に応じている。また退院時にはカンファレンスに参加して医療機関との連携に努めている。	入退院時の手続きは管理者が窓口となり、家族と連携しながら、利用者が安心して治療を受けられるよう支援に努めている。入院後は病院関係者と情報共有しながら連携し、安心して早期退院ができるよう職員と話し合いながら、受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の方針を説明して早い段階から希望を聞いている。月日が経ち重度化した段階で主治医、ご家族、職員と話し合い、安心して終末期を過ごしていただけるよう努めている。	契約時に、重度化や終末期に向けた事業所の指針を説明し、利用者・家族の同意を得ている。事業所での看取り希望が増えており、その要望に対応するための体制や人材確保に努めている。看取りに関する研修や看取り士資格取得についても検討している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特に事故が起こりやすい食事時や入浴時などを想定し緊急時の初期対応に備えている。ヒヤリハットを記入して、事故が起きないように検討会を開催している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防署の指導により行っている。ハザードマップより土砂災害の可能性を確認しており、訓練を行っている。備蓄も計画的に準備している。今後も地域の防災訓練に参加するなどして協力体制を強化していきたい。	年2回、火災訓練を実施している。備蓄品の見直しや補充、緊急時の職員配置などについても話し合っている。感染症及び食中毒についても対策を検討し、記録等も整えている。地域の防災訓練にも参加し、協力体制作りに取り組むとしている。	ハザードマップを確認し、地域の住民と共に、過去に受けた災害を振り返りながら、意見交換を行う場を検討している。家族とも連携し、防災対策の強化に繋がることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の居室に入る時は必ずノックをしている。特に入浴時や排泄時、着替えの時はプライバシーに配慮している。声かけも不快にならないようにそっと優しい声かけを心がけている。	年間研修計画で、常に利用者の尊厳を守り、プライバシーを損ねない対応、傾聴等をテーマに学んでいる。職員は、入室時のノックや着替えの手伝い、入浴・排泄介助時など、利用者一人ひとりを尊重した対応が自然に出来ている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の過ごし方や誰と過ごしたいか等、利用者様の思いを大切にしている。食事の献立も好き嫌いに配慮して希望を取り入れている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの趣味や好きなことを把握し、プライベートな時間を守っている。活動を行う時は利用者様のその時の体調や気持ちを伺い、意思決定を促している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑から採れた野菜などを、一緒に見て、調理して、味わうことを実施して好評を得ている。利用者様の嚥下状態に応じて形態を変え、同じ物が食べられるように対応している。	食事は、利用者が一番の楽しみと捉えている。近隣住民から旬の食材が届いたり、畑で採れた野菜も活用した手作り食を提供している。米も美味しいと利用者にも好評である。朝はパンなどの希望も取り入れ、誕生日のイベント食やお茶の時間も設け、食べる楽しみに繋げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量を把握し、利用者様が脱水にならないよう、内容にも気をつけている。栄養バランスのとれた献立を作り、食べる量に合わせて盛り付けにも工夫している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分のできる方には義歯の手入れを忘れないように声をかけ、一人ひとり口腔ケアを必ず確認している。また、義歯の具合などを協力歯科医に相談することもある。	各居室に洗面台が設置されており、利用者は食後に、ゆっくり口腔ケアをすることが出来る。自立支援を目標に、出来ない部分を補助しながら、見守っている。治療が必要な場合は、家族と相談して協力歯科医の受診に繋げている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、個々に合わせて排泄誘導することで失敗を減らしている。食前、就寝前には声かけをしたり、習慣を大切にしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回を基本として、曜日を決めず個浴をしていただいている。入浴中はその人に合った対応で安全に入らせていただいている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にトイレ誘導、着替えなどの介入、声かけをして安心して休んでいただいている。個々の就寝時間に合わせ、生活リズムを整えている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の往診には職員は必ず立ち合いをして、薬の目的を理解している。処方された薬の副作用や効果を主治医と話し合い、利用者様の変化を報告している。	服薬管理は管理者が行い、一定の場所に保管している。処方薬の変更時は、管理者、看護師が説明、全職員に周知している。職員は、配薬から利用者が飲み終えるまでを複数人で確認し、服薬のヒヤリハットや事故防止に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや自室の掃除等、役割を持っていただいている。料理の下ごしらえやホットプレートを使って皆で料理を作り、味わう事も大変喜んでいただいている。また、ぬくもり売店を開催して買い物をする楽しみを支援している。	利用者自身が居室の掃除や洗濯物たたみ、花の手入れやおやつ作り等、役割を持って行えるよう職員が声かけし、支援している。定期的に事業所で開く「ぬくもり売店」は、買い物をする楽しみになっており、利用者には好評である。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域で行われている催しへ希望にそって外出支援している。例えば道の駅でのお祭りや、展覧会を鑑賞する等、地域の方と触れ合う機会に努めている。また、散歩や園庭で食事をしたり、花植えなど楽しんでいただいている。	天候や利用者個々の健康状態に合わせて、広い庭や近隣の散歩を支援している。利用者は地域の人と挨拶を交わしたり、季節の移り変わりを楽しんでいる。また、利用者の希望を聞きながら外出計画を立て、地域の道の駅でのイベントや花見に出掛けるなど、感染症予防に留意しながら、外出支援に努めている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は自己管理をしていただき、他の方は小口資金として預かり、欲しい物があつた時に使用できるように支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様、家族様の希望により電話を取り次いだり、暑中見舞いや年賀状のやり取りを支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地よく生活できるように、ソファやテーブルセットを配置している。また、外の景色を楽しめるように、デッキにベンチを置いている。館内は季節感のある飾りや温かみ、美しい色合いの物を利用し、清潔で心地良い空間作りをしている。	共用スペースは広く、窓から外の景色を眺めることができる。玄関や居室、随所に季節の花が活けてあり、季節を感じるができる。手入れされた調度品、着物や帯が飾られており、居心地よい空間になっている。居室には机やソファの設置があり、読書やテレビ鑑賞、趣味の作業など自由に自分の時間を過ごすことが出来る環境となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室から共有スペースが近くにあり、孤独を感じないようにしている。共有スペースで仲の良い利用者様同士が楽しく談笑できるようソファや椅子を用意し、くつろいでいただいている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、テーブルセット、タンス、ソファを備え付けで用意している。ご本人の趣味で書かれた絵やご家族の写真、思い出の品を持ち込んだり、使い慣れた物を自由に活かしながら過ごしていただいている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室から廊下への移動が楽に安全にできるように、ベッドやテーブルの位置を工夫している。トイレをわかりやすいように照明を明るくしたり、自室の入り口にはお名前を掛けてある。		